

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林研究費

事業名 森林研究所県単試験調査費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

森林研究所 電話番号：0575-33-2585

E-mail：c25108@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 18,485 千円 (前年度予算額： 19,110 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	19,110	0	0	0	0	0	15,410	0	3,700
要求額	18,485	0	0	0	0	0	15,474	0	3,011
決定額	18,485	0	0	0	0	0	15,474	0	3,011

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

健全で豊かな森林づくりや林業及び木材産業の振興を図るため、地域のニーズや森林所有者、林業事業者、企業が直面する問題点に対応するため、迅速かつ柔軟に実施する技術開発や基礎的な調査研究、及び技術移転に取り組む。

(2) 事業内容

○継続研究課題 9課題

- ・ヒノキ根株心腐れ病の病原菌の解明と植栽木への感染リスクの評価(県費)
- ・コウヨウザンの乾燥性、材質および強度等に関する研究(〃)
- ・安定した苗供給と多様な森林づくりに向けた育苗技術の開発(〃)
- ・森林作業道整備における損壊発生リスク評価手法の研究(〃)
- ・EBPM実現のための森林路網B/C評価ツールの開発と社会実装(外部資金)
- ・安心安全なゲノム編集技術の開発が拓く環境配慮型のシイタケ実用品種の開発(〃)
- ・植物の遺伝情報を用いた伊吹山の織田信長の幻の薬草園伝説の検証(〃)
- ・用途に応じた木材製品を安定供給するための大径材の加工・利用技術の開発(〃)
- ・長良川流域における森・里・川の気候変動適応が中山間地域の生業の持続性とウェルビーイングに与える影響の研究(〃)

○新規研究課題 7課題

- ・UV-Bによるキノコバエ類の防除技術の開発育苗技術の開発(県費)
- ・現場で使える山地災害リスク評価手法の研究(〃)
- ・高級菌根性きのこの栽培に関する技術開発(〃)

- ・ヒノキ根株腐朽病の防除対策に向けた木材腐朽菌の実態解明（外部資金）
- ・変色等の品質低下を最小化させる流通・管理システムの開発（ 〃 ）
- ・森林病害虫フリー木材を供給するためのシステム構築（ 〃 ）
- ・I o T温室を活用した苗木育成技術の開発（ 〃 ）

（３）県負担・補助率の考え方

試験研究には試行錯誤が伴い、取り組んでも必ず成果が出るとは限らないなどリスクも大きいため、民間が自ら試験研究を実施することは困難である。よって、県が主体となって試験研究に取り組む必要がある。

（４）類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	1,957	補助職員報酬、労災保険料
費用弁償	107	補助職員旅費（通勤手当相当）
旅費	2,671	職員旅費（調査、打合せ、情報収集、成果発表）
需用費	8,921	試験や調査のための消耗品購入、公用車燃料、冊子作成等
役務費	1,093	作業の手数料
委託料	860	研究委託
備品購入費	2,500	機器購入
その他	376	学会参加費、有料道路通行料金等
合計	18,485	

決定額の考え方

4 参考事項

（１）各種計画での位置づけ

- ・第4期岐阜県森林づくり基本計画（R4～R8）
- ・岐阜県林政部研究推進方針に基づいた森林研究所推進計画（R4～R8）

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

「第4期岐阜県森林づくり基本計画」及び「森林研究所推進計画」に沿って、以下のとおり事業を進める。

- ① 健全で豊かな森林づくりや林業及び木材産業の振興のため、地域の課題や現場の声を反映した研究開発及び普及指導活動に取り組む。
- ② 研究者の視点から、長期的な視野に立って地域の特性に応じた課題を探求し、大学その他の研究機関や事業者と連携して研究の幅を広める。
- ③ 研究員、技術者等人材の育成に努める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①技術移転の推進	—	18	10	10	—	180%
②外部資金の導入	—	5	3	3	—	100%

○指標を設定することができない場合の理由

--	--

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	11テーマの課題について、新技術の研究開発及び技術支援による社会での実用化を目指し、研究開発に取り組んだ。山地災害リスクを考慮した森林管理手法について林業事業者へ指導するなど、計18件の技術移転を行った。
令和 3 年度	10テーマの課題について、新技術の研究開発及び技術支援による社会での実用化を目指し、研究開発に取り組んだ。山地災害リスクを考慮した森林管理手法について林業事業者へ指導するなど、計16件の技術移転を行った。
	指標① 目標： <u>10</u> 実績： <u>16</u> 達成率： <u>160</u> % 指標② 目標： <u>5</u> 実績： <u>3</u> 達成率： <u>60</u> %
令和 4 年度	12テーマの課題について、新技術の研究開発及び技術支援による社会での実用化を目指し、研究開発に取り組んだ。森林管理や山地災害防止、特用林産物生産などの分野で林業事業者や事業者へ指導するなど、計18件の技術移転を行った。
	指標① 目標： <u>10</u> 実績： <u>18</u> 達成率： <u>180</u> % 指標② 目標： <u>5</u> 実績： <u>5</u> 達成率： <u>100</u> %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価)	健全で豊かな森林づくりや林業及び木材産業の振興を図るため、森林所有者、林業事業者、企業が直面する課題に対して、新技術の研究開発の面から技術支援することで、地域経済の基盤強化に貢献しており、事業の必要性は高い。
3	
<p>・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価)	技術移転件数は、年によって変動しているが、研究成果が大いに活用されている。外部資金の導入件数は年による変動があり今年度は目標を下回った。獲得が困難になってきているが、獲得を目指して今後も積極的に応募していく。
2	
<p>・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価)	各研究課題の予算書、提案書を審査し、課題内容に応じた適切な予算額に査定することで経費の削減を図っている。また、積極的に外部資金に応募し、森林・林業に係る県民の多様なニーズに応えられるように努めている。
1	

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 研究成果を普及するため、研究成果発表会、マスコミへの情報提供、イベントでのPRをより積極的に進める必要がある。また、林業普及指導員と連携して、わかりやすい研究成果のPRに一層努める。 外部資金の予算規模縮小に伴い、採択課題数が減少しているため、年々競争率が高くなり、獲得が困難になっている。引き続き、外部資金に積極的に応募していくとともに、研究員の資質向上や他機関との連携をより密に図る必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 健全で豊かな森林づくりや林業及び木材産業の振興を図るため、より積極的に事業を推進していく必要がある。 森林所有者、林業事業者、企業及び一般県民からの多様な技術相談に応じるとともに、こうした機会を利用して研究開発ニーズの把握に努め、直近のニーズを研究開発に反映し、健全で豊かな森林づくりや林業及び木材産業の振興を進める。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	